

2020年3月期 決算説明会

1. 当期決算の概要(連結)
2. 次期業績見通し
3. 前中期経営計画の総括
4. 次期の取り組み

2020年5月15日

日本光電工業株式会社

証券コード : 6849

<https://www.nihonkohden.co.jp>

Fighting Disease with Electronics



当期におけるCOVID-19への対応と影響

当社における対応

- 上海光電は、1月24日から2月9日まで生産稼働停止
中国における生体情報モニタ、除細動器、心電計等の需要の急増には在庫で対応
2月10日に生産稼働再開(3割程度)、3月2日以降は通常どおりの生産稼働
- 2月25日に対策本部を設置し、次の基本方針の下で事業活動を推進
(1)従業員およびその家族の健康維持・安全確保を最優先とする
(2)医療体制の維持のため製品とサービスの供給責任を果たす
- 3月27日以降、所沢事業所、富岡生産センタにおいて、計7名の感染者が発生
富岡生産センタは、3月30日から4月14日まで稼働停止、4月15日に稼働再開
この間の医療機器の供給は東日本物流センタの在庫で対応
- 各国における外出禁止令等を受け、営業活動を制限(生産・出荷・インストール等を除く)

業績
影響

- 【国内】売上高△約5億円:生体情報モニタ、人工呼吸器の問合せはあったものの、
不要不急の訪問自粛により、診療所・PAD市場での売上にマイナス影響
- 【欧州】売上高+約4億円:3月に入り生体情報モニタ等の需要が急増

1

当期決算の概要（連結）

1) 当期の決算概要

(単位:百万円、単位未満切捨て)

	前期 2019/3	当期 2020/3			
		期初予想	11月5日修正	実績	対前期 増減率(%)
売上高	178,799	186,000	186,000	185,007	3.5
国内売上高	130,223	133,000	134,500	134,355	3.2
海外売上高	48,575	53,000	51,500	50,651	4.3
売上総利益 (売上総利益率)	85,987 48.1%	90,200 48.5%	89,800 48.3%	89,325 48.3%	3.9
営業利益 (営業利益率)	15,044 8.4%	16,000 8.6%	16,000 8.6%	15,503 8.4%	3.1
経常利益	15,867	16,000	16,000	14,846	△ 6.4
親会社株主に帰属する 当期純利益	11,191	11,000	10,700	9,854	△ 12.0

COVID-19の影響

【国内】売上高△約5億円:生体情報モニタ、人工呼吸器の問合せはあったものの、不要不急の訪問自粛により診療所・PAD市場での売上に影響

【欧州】売上高+約4億円:3月に入り生体情報モニタ等の需要が急増

為替影響除く: +7%

自社品	2019/3	2020/3
売上比率	64.8%	65.6%

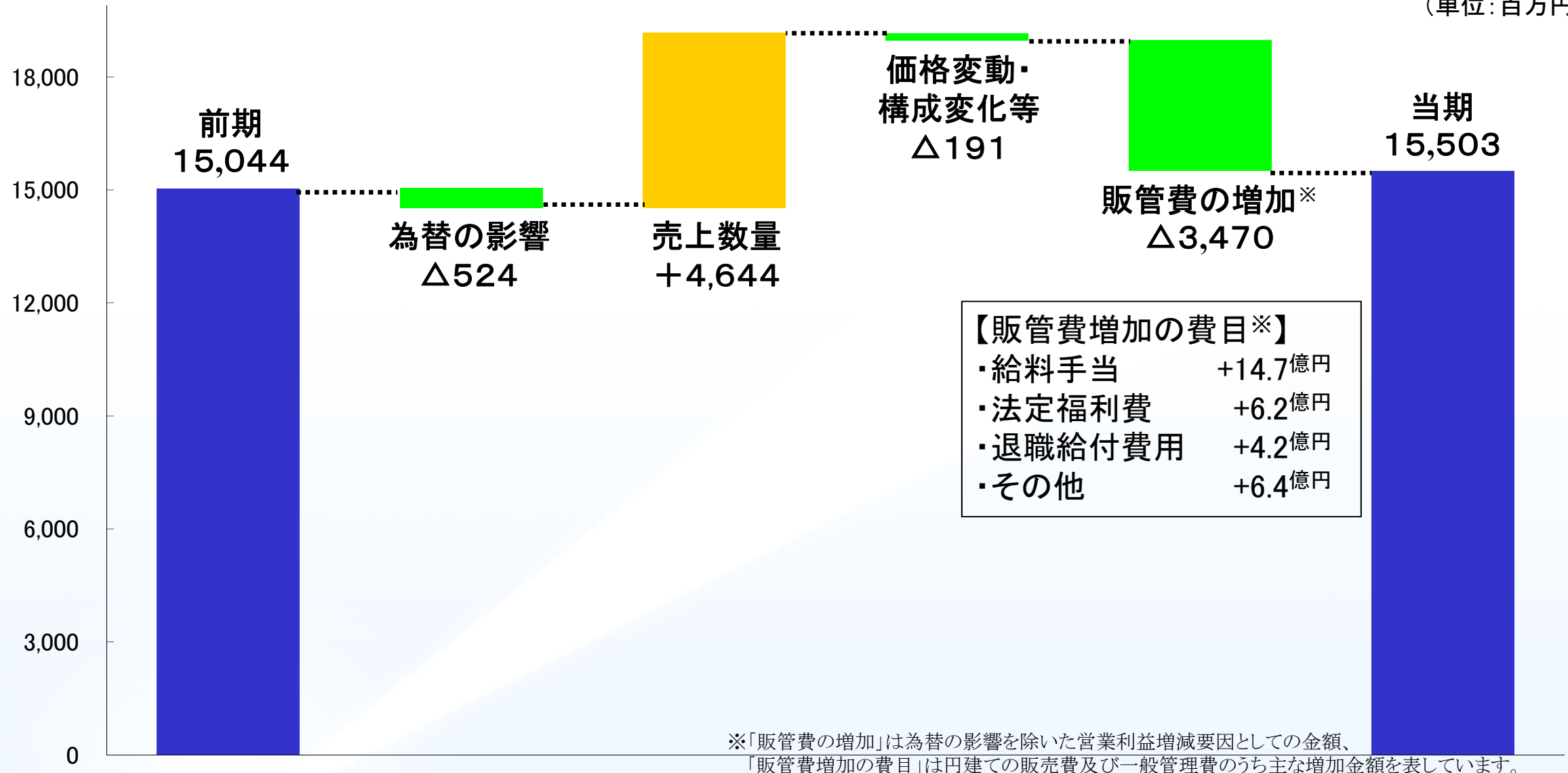
	2019/3	2020/3
為替差損益	差益85百万円	差損973百万円

【特別損失】	2020/3
和解金:	520百万円
事業所移転費用:	188百万円

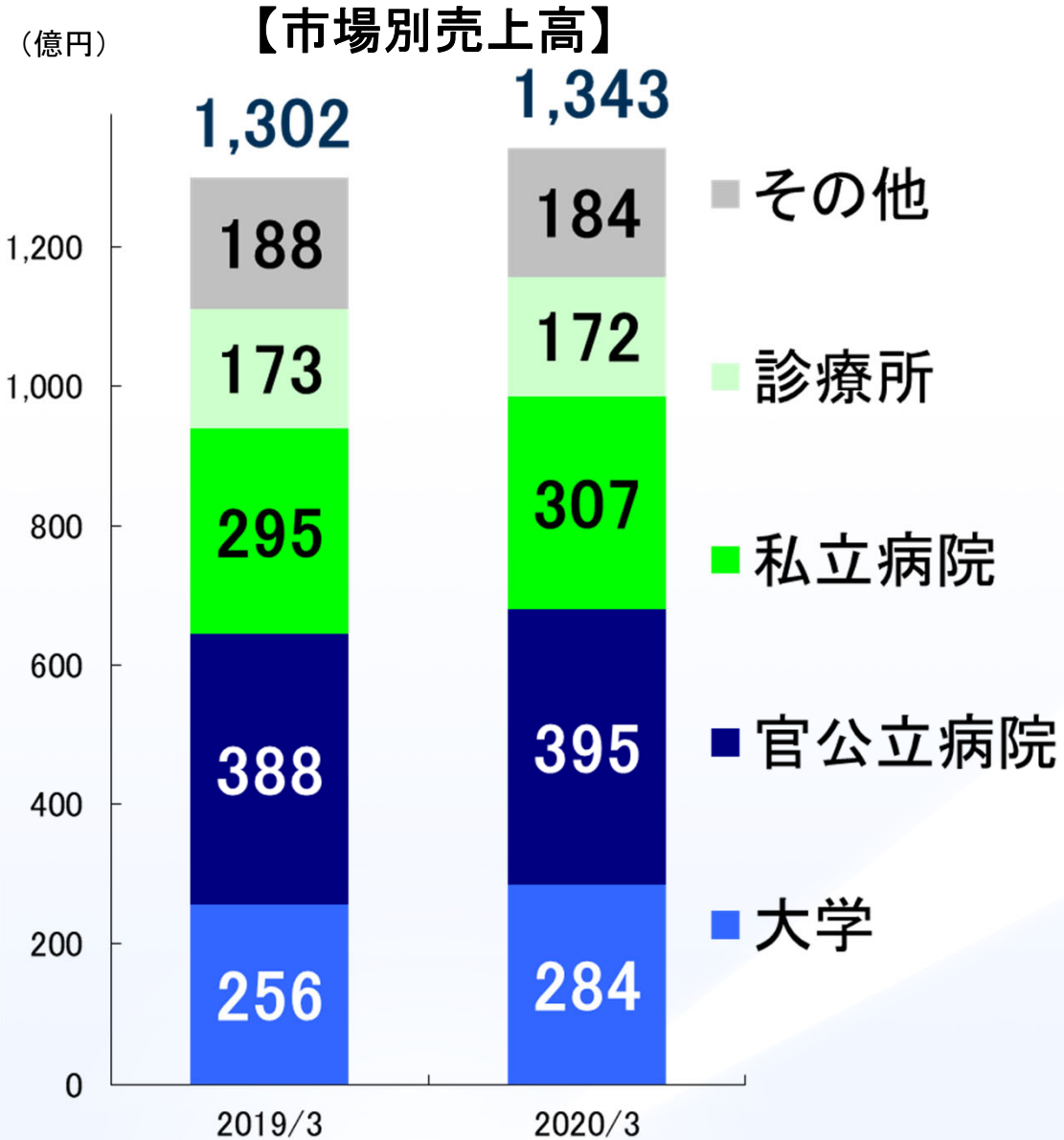
平均レート	(2019/3)	(2020/3)	(2020/3)	(2020/3)
1 米 ド ル	110.8円	108円	108.5円	109.1円
1 ユ ー ロ	128.5円	125円	121円	121.1円

2) 営業利益増減の要因分析

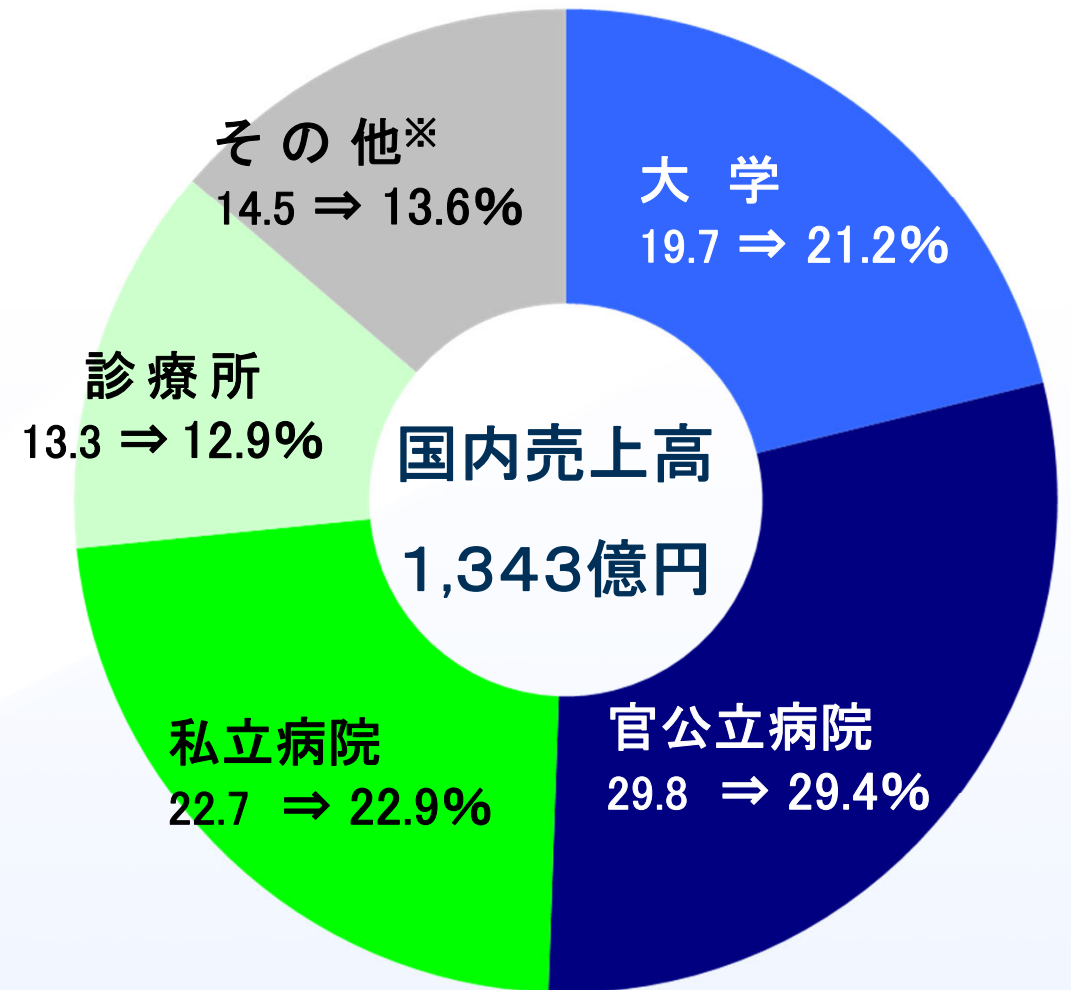
(単位: 百万円)



3) 国内売上高



市場別売上構成比
(2019/3⇒2020/3)



※その他には、研究所、動物病院、消防など行政機関のほか、AED納入先である学校や民間企業を含みます。

4) 海外売上高

【地域別売上高】

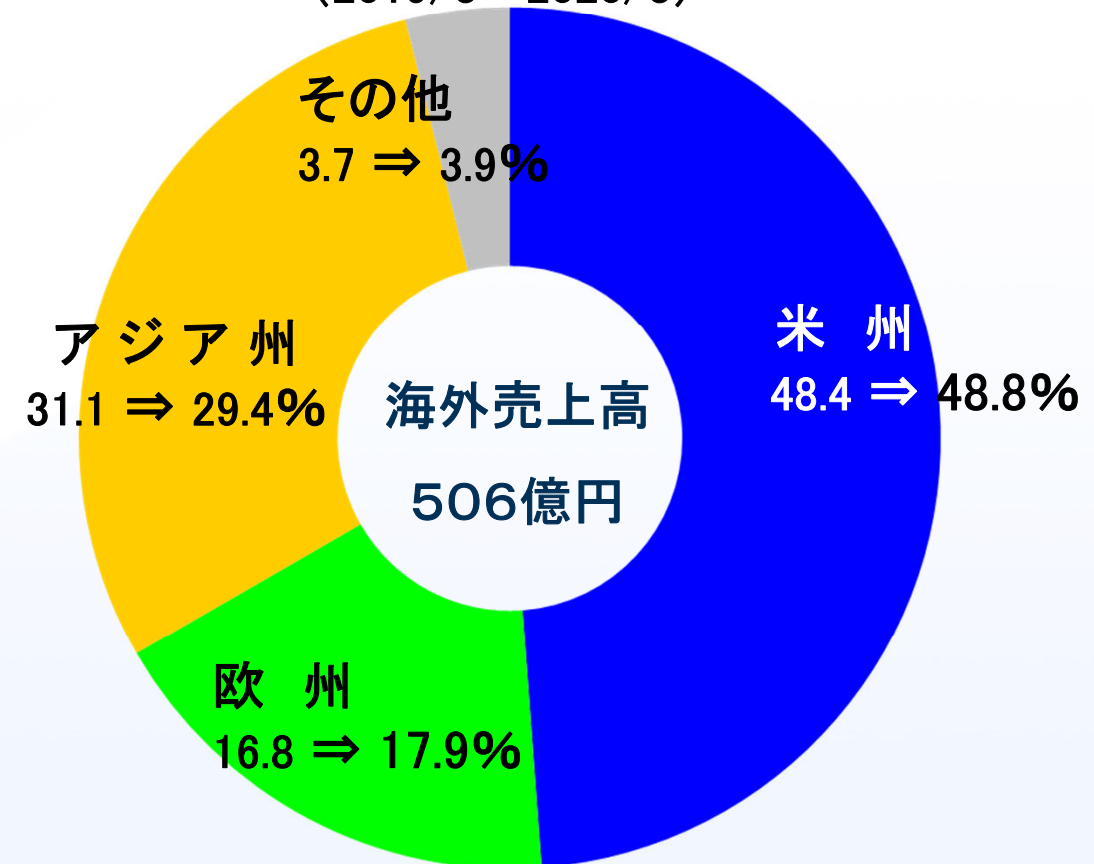
【海外売上高】

海外売上高比率

2019/3	2020/3
27.2%	27.4%

地域別構成比

(2019/3⇒2020/3)



前期比+4%(為替影響除く: +7%)

■ その他
前期比+10%
(為替影響除く: +11%)

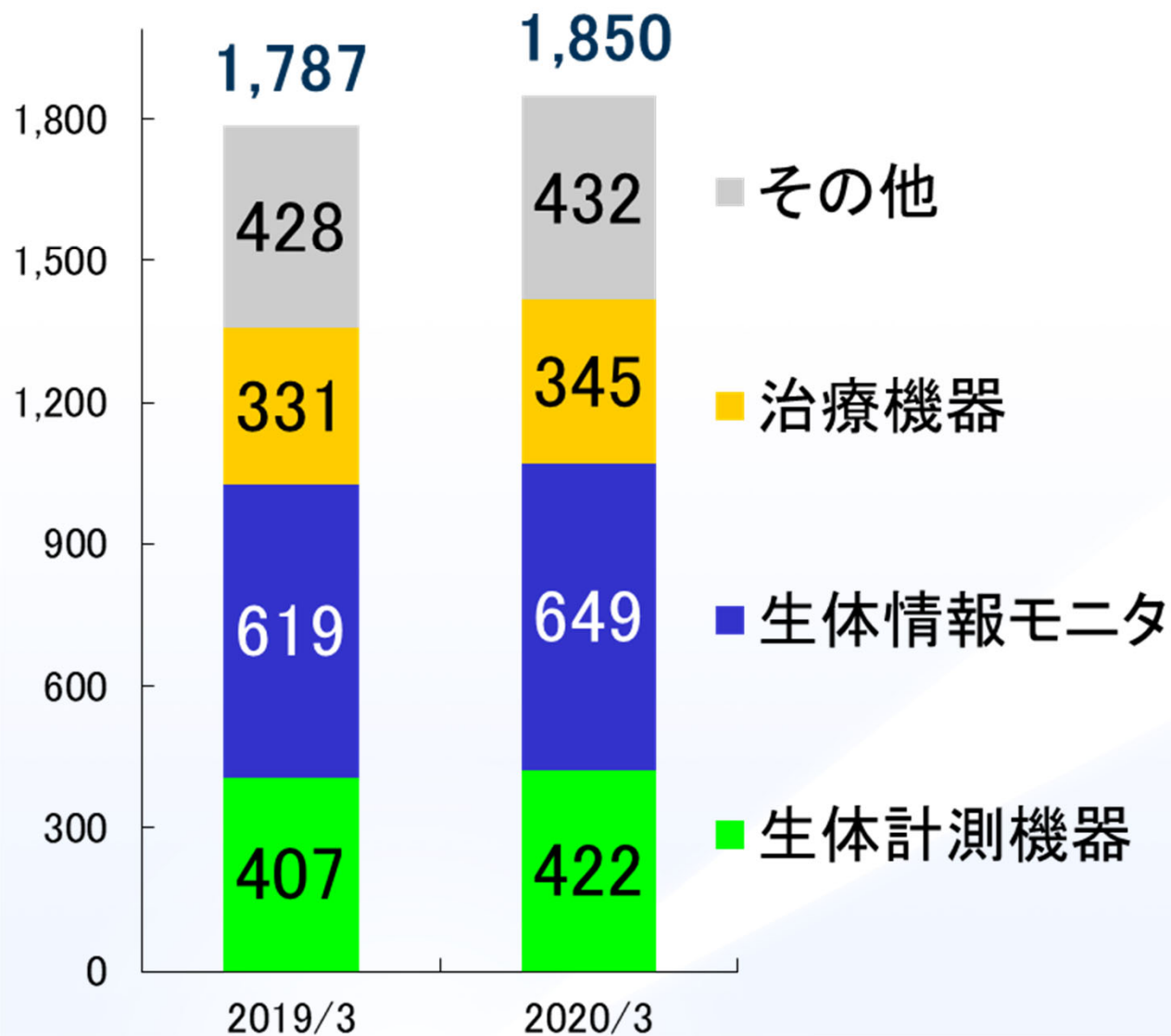
■ アジア州
前期比△1%
(為替影響除く: +2%)

■ 欧州
前期比+11%
(為替影響除く: +16%)

■ 米州
前期比+5%
(為替影響除く: +7%)

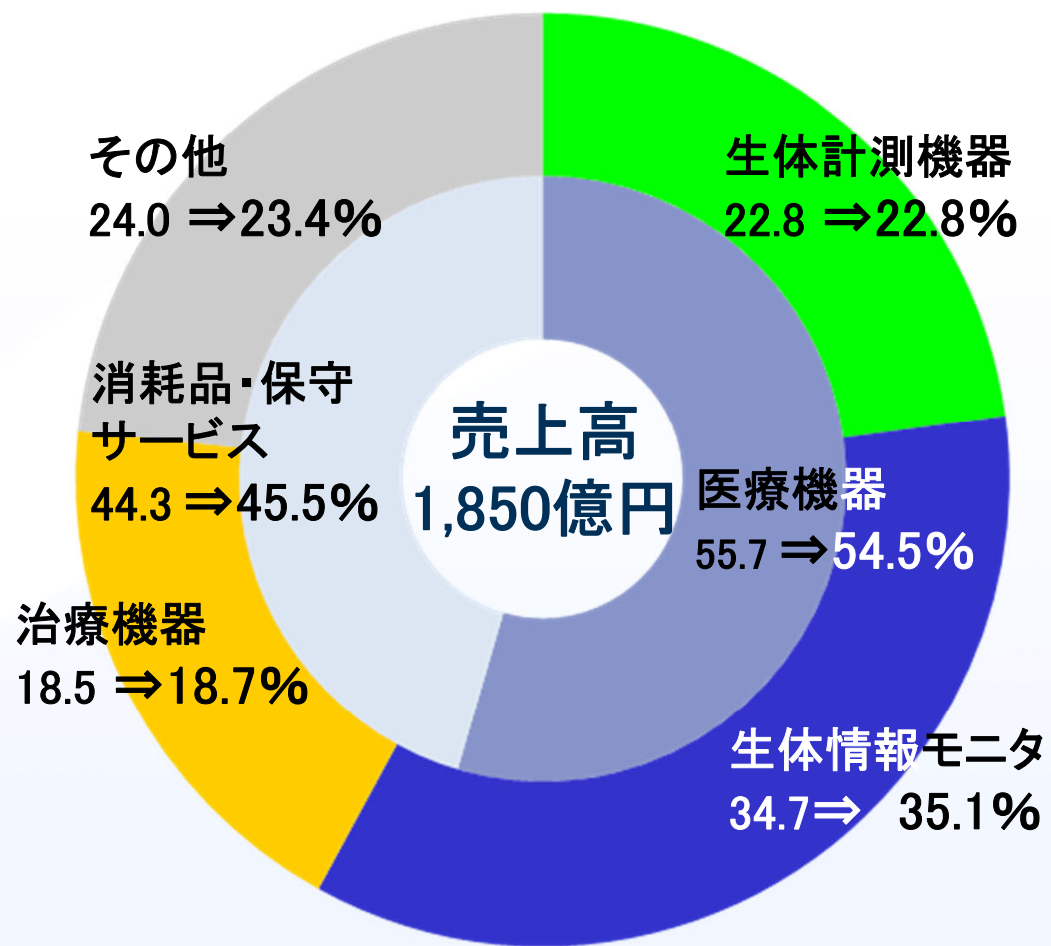
5) 商品群別売上高

(億円)



商品群別売上構成比

(2019/3⇒2020/3)



5.1) 生体計測機器

	前期 2019/3	当期 2020/3	増減率(%)	(単位:百万円)
脳 神 経 系 群	7,648	7,564	△ 1.1	
心 電 計 群	6,766	6,661	△ 1.6	
心臓カテーテル検査装置群	14,468	16,081	11.1	
その他(診断情報システム等)※	11,888	11,966	0.7	
生 体 計 測 機 器 合 計	40,773	42,273	3.7	
う ち 国 内 売 上 高	32,112	33,207	3.4	
う ち 海 外 売 上 高	8,661	9,065	4.7	

心臓カテーテル検査装置群が好調。心電計群は前期並み。脳神経系群は減収

脳神経系群が好調に推移、米国がけん引。心電計群は現地通貨ベースでは前期並み、円ベースでは減収

※その他には、診断情報システムや他社製の生体計測機器を含みます。



5.2) 生体情報モニタ

	前期 2019/3	当期 2020/3	増減率(%)
生体情報モニタ合計	61,978	64,966	4.8
うち国内売上高	37,641	39,735	5.6
うち海外売上高	24,337	25,230	3.7

(単位:百万円)

新製品のベッドサイドモニタ、医用テレメータが寄与。筋弛緩モジュールや超音波プローブ等のオプション品も好調

米州、欧州、アジア州ともに増収。特に欧州が大幅に伸長



CSM-1501



CSM-1502



CSM-1701



CSM-1702

NEW!



ベッドサイドモニタ
PVM-4000

NEW!



スポットチェックモニタ
SVM-7200

NEW!



医用テレメータ
WEP-1400



SpO₂
プローブ



cap-ONE
バイトブロック



心電図
電極

消耗品関連

5.3) 治療機器

	前期 2019/3	当期 2020/3	増減率(%)
医科向け除細動器	6,163	6,276	1.8
A E D	15,388	15,495	0.7
ペースメーカー・ICD	3,019	3,070	1.7
人工呼吸器	2,660	3,553	33.6
その他	5,916	6,117	3.4
治療機器合計	33,149	34,512	4.1
うち国内売上高	22,299	23,695	6.3
うち海外売上高	10,849	10,816	△ 0.3

(単位: 百万円)

【国内】病院、消防での更新商談受注

【海外】アジア州が低調

【国内】COVID-19の影響から販売台数が減少。消耗品も減収

【海外】アジア州、米州で増収

【国内】新築移転商談の受注もありハミルトン社製が好調。自社製新製品NKV-330も寄与
【海外】自社製新製品NKV-550/330が寄与

(参考) AED販売台数	101,900台	98,400台	△ 3.4
うち国内販売台数	49,700台	48,800台	△ 1.8



除細動器
EMS-1052



AED
AED-3150



心臓ペースメーカー
Zenex MRI



人工呼吸器
HAMILTON-C6



人工呼吸器
NKV-330



人工呼吸器
NKV-550

5.4) その他

	前期 2019/3	当期 2020/3	増減率(%)
検体検査装置	9,666	10,172	5.2
画像診断装置、 研究用機器他※	33,231	33,082	△ 0.4
その他合計	42,898	43,254	0.8
うち国内売上高	38,169	37,716	△ 1.2
うち海外売上高	4,728	5,538	17.1

(単位:百万円)

画像診断装置など現地仕入品が減収。
診療所向けの検体検査装置が好調。
医療機器の設置工事・保守サービスも好調

血球計数器が中南米、欧州、アフリカで増収。
米国で医療機器の設置工事・保守サービスも好調

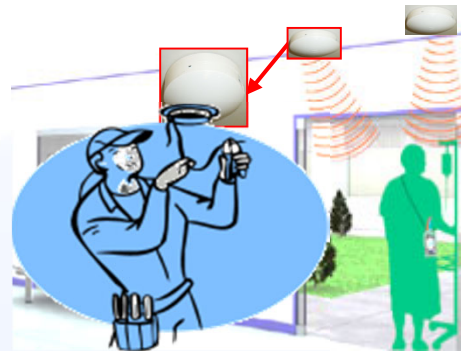
※他の商品群に分類されない、消耗品や設置工事・保守サービスを含みます。



全自動血球計数器
MEK-9100



全自動血球計数・
免疫反応測定装置
MEK-1303



設置工事・保守サービス

[参考]地域別商品群別売上高・対前期増減率

(単位:億円、単位未満切捨て)

	合計	国内	海外				
			計	米州	欧州	アジア州	その他地域
生体計測機器	422 (+4%)	332 (+3%)	90 (+5%)	41 (+10%)	13 (+9%)	33 (△3%)	2 (△1%)
生体情報モニタ	649 (+5%)	397 (+6%)	252 (+4%)	155 (+2%)	35 (+15%)	54 (+5%)	6 (△12%)
治療機器	345 (+4%)	236 (+6%)	108 (△0%)	40 (△0%)	31 (+8%)	28 (△10%)	6 (+10%)
その他	432 (+1%)	377 (△1%)	55 (+17%)	9 (+174%)	9 (+9%)	31 (△2%)	4 (+77%)
売上高合計	1,850 (+3%)	1,343 (+3%)	506 (+4%)	247 (+5%)	90 (+11%)	148 (△1%)	19 (+10%)

6) 財政状態

(単位: 百万円)

	前期末 2019/3	当期末 2020/3	増減額		前期末 2019/3	当期末 2020/3	増減額
流動資産	132,211	129,020	△ 3,191	流動負債	48,346	40,319	△ 8,026
たな卸資産	28,599	29,249	650	有利子負債	406	350	△ 56
有形固定資産	19,945	20,003	57	固定負債	5,282	5,692	409
無形固定資産	4,563	4,149	△ 413	純資産	116,087	121,774	5,686
投資その他資産	12,997	14,612	1,615				
資産合計	169,717	167,786	△ 1,930	負債・純資産合計	169,717	167,786	△ 1,930
たな卸資産回転月数	3.7ヵ月	3.7ヵ月		自己資本比率	68.4%	72.6%	

【流動資産の減少の理由】

- ・ 前期に比べて3月単月の売上高が小さかったこと等から、売掛金が減少 △60億円

【流動負債の減少の理由】

- ・ 2019/5下請法改正に伴う支払期日の短期化等から、買掛金が減少 △88億円

7) キャッシュフロー

	前期 2019/3	当期 2020/3	増減額
I 営業CF	9,819	9,217	△ 602
II 投資CF	△ 3,258	△ 4,607	△ 1,349
FCF	6,561	4,609	△ 1,952
III 財務CF	△ 3,074	△ 3,054	20
換算差額	△ 74	△ 339	△ 264
増減額	3,412	1,215	△ 2,196
期末残高	34,697	35,913	1,215

(単位:百万円)

	2019/3	2020/3	増減
税金等調整前当期純利益	15,519	13,980	△1,538
売上債権の増減額(増加:△)	△2,114	6,925	+9,040
仕入債務の増減額(減少:△)	2,905	△8,429	△11,334
投資有価証券の取得による支出	△44	△965	△920
有形固定資産の取得による支出	△2,794	△3,106	△311

ROE	9.9%	8.3%	
-----	------	------	--

8) 設備投資と研究開発費

(単位: 百万円)

	前期 2019/3	当期 2020/3			増減額 (年度比較)	次期計画 2021/3
		期初計画	前回計画※	実績		
設備投資額	3,049	4,700	4,600	3,549	500	3,900
減価償却費	3,542	3,900	3,800	3,597	55	3,600
研究開発費	7,243	7,600	7,200	6,731	△ 512	7,000

※2019/11/5 第2四半期決算発表時の予想数値

●設備投資の実績

新製品の「型」、計測器・治具、販促用製品、
工場生産設備、ドバイ試薬工場、
東日本物流センター

→企画賃貸型のため、投資は移動ラックなど物流設備のみ

●2021/3設備投資計画

新製品の「型」、計測器・治具、販促用製品、IT投資
工場生産設備(需要の増加に伴う人工呼吸器2機種・
生体情報モニタの生産増強を含む)



NKV-330



NKV-550



2

次期業績見通し

1) 経営環境

国内

2025年医療・介護の将来像

- ・医療の機能分化・強化と連携
- ・地域包括ケアシステムの推進

- ・2020年度中の約440の公立・公的病院の再編検討は、期限延長
- ・地域医療介護総合確保基金 2020年度 1,194億円(医療)

2020年4月 診療報酬本体改定率+0.55%

- ・病院は、地域医療構想に沿って病床再編を具体化
- ・働き方改革、医師偏在対策を推進

2020年度補正予算
新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金の
創設 1,490億円、人工呼吸器の確保 265億円

海外

欧米諸国

- ・医療の質と効率性の向上
- ・米国IDN※¹の拡大、サイバーセキュリティ要求増
- ・欧州GPO※²など集中購買の広がり

新興国

- ・一部地域で景気の先行き、政策動向に不透明感、現地通貨、原油価格下落の影響
- ・経済発展に伴う医療インフラ整備

医療機器の需要は底堅く推移

世界各国でCOVID-19に対応するための
医療機器を緊急整備

※1 IDN: Integrated Delivery Network 総合医療ネットワーク ※2 GPO: Group Purchasing Organization グループ購買組織

2) COVID-19感染拡大の影響 - 国内

マイナス面



外来患者数の減少
不急の手術・入院の延期

病院収益
悪化の懸念

- 不要不急の営業活動を自粛
- カテーテル・ペースメーカー・ICD症例の減少
- 診療所・PAD市場での需要が鈍化

プラス面

- 初診オンライン診療開始
- COVID-19の外来診療・入院管理に加点
- 新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金の創設 1,490億円
- 人工呼吸器の確保 265億円

- 生体情報モニタ、人工呼吸器等に関する問合せが増加



外来患者数の回復
手術・入院の再開

- 営業・サービス活動の再開
- カテーテル・ペースメーカー・ICD症例の再開

【見通しの前提】
上期末まで
影響が続くと仮定

上期

下期

2) COVID-19感染拡大の影響 - 海外

プラス面



医療機器の緊急整備

- ・欧州に続き、米国、新興国で生体情報モニタ、人工呼吸器の商談が増加



集中治療体制の強化・整備

- ・国によっては、生体情報モニタ、人工呼吸器の備蓄が進む可能性

【見通しの前提】
3Q末まで影響が続くと仮定

マイナス面

- ・各国における外出禁止令等を受け、営業活動を制限
(生産・出荷・インストール等を除く)
- ・PAD市場でのAEDの需要減少
- ・サプライチェーンの混乱による部品調達の遅延

経済の
停滞・悪化

政府予算の縮小・
設備投資抑制の懸念

- ・特需の反動減が発生する可能性

上期

下期

3) 次期業績見通し

	当期実績 2020/3	次期予想 2021/3	増減率 (%)
売上高	185,007	180,000	△ 2.7
国内売上高	134,355	126,200	△ 6.1
海外売上高	50,651	53,800	6.2
売上総利益 (売上総利益率)	89,325 48.3%	87,200 48.4%	△ 2.4
営業利益 (営業利益率)	15,503 8.4%	14,000 7.8%	△ 9.7
経常利益	14,846	14,000	△ 5.7
親会社株主に帰属する 当期純利益	9,854	10,000	1.5
海外売上高比率	27.4%	29.9%	

(単位:百万円)

← 為替影響除く: +9%

【地域別海外売上高】

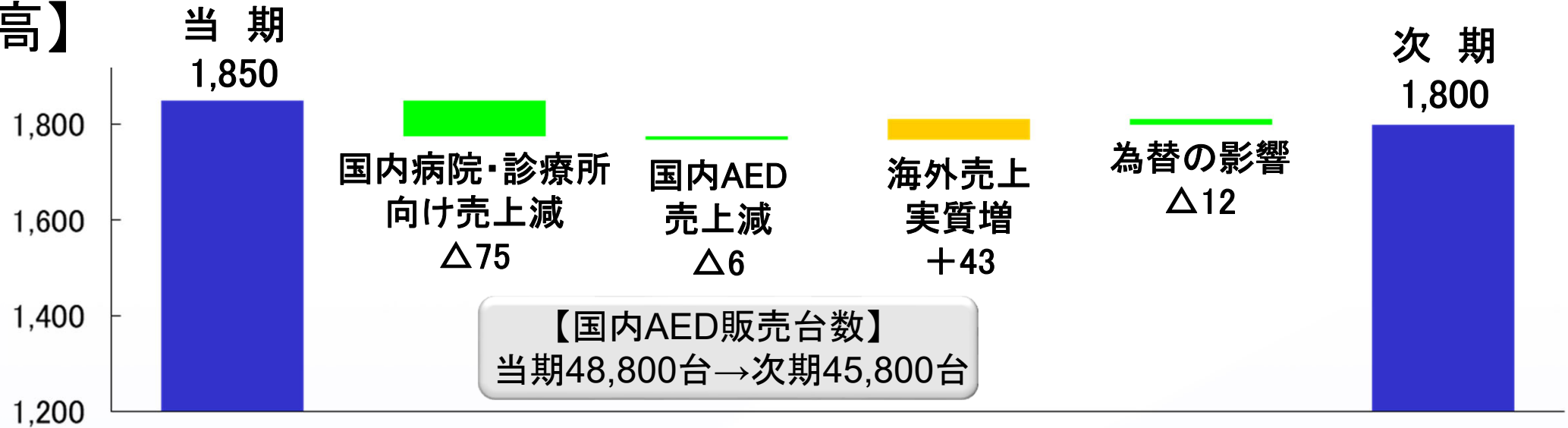
	当期実績 2020/3	次期予想 2021/3	増減率(%)
米 州	24,731	26,600	7.6
欧 州	9,044	8,800	△ 2.7
アジア州他	16,876	18,400	9.0
海 外 計	50,651	53,800	6.2

※2021/3期から、アジア州とその他地域を合わせて、アジア州他としています。

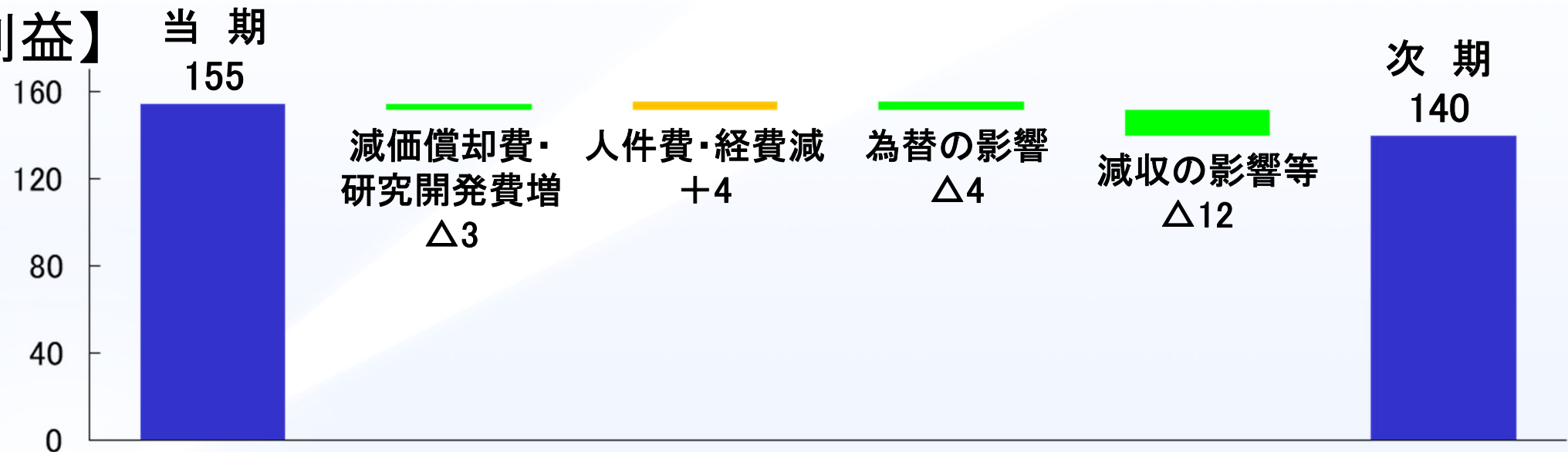
4) 次期業績見通しの要因分析

(単位: 億円)

【売上高】



【営業利益】



[参考]商品群別売上高見通し/為替の影響

(単位:百万円)

	当期実績 2020/3	次期予想		増減率(%)
		2021/3	構成比(%)	
生体計測機器	42,273	37,200	20.7	△ 12.0
生体情報モニタ	64,966	68,500	38.1	5.4
治療機器	34,512	35,800	19.9	3.7
その他	43,254	38,500	21.3	△ 11.0
売上高合計	185,007	180,000	100.0	△ 2.7

生体情報モニタ、人工呼吸器の需要増加に伴い、増産体制を構築

(ご参考)

消耗品・保守サービス	84,160	82,200	45.7	△ 2.3
------------	--------	--------	------	-------

平均レート

	当期実績 2020/3	次期予想 2021/3
1 米 ド ル	109.1円	107円
1 ュ ー ロ	121.1円	117円

為替感応度の概算値(年間)

	売上高	営業利益
1 米 ド ル	3.3億円	1.0億円
1 ュ ー ロ	0.6億円	0.2億円

3

前中期経営計画の総括

TRANSFORM 2020の成果

高収益体質への変革

1 高い顧客価値の創造

- 当社初となる製品を相次ぎ投入

超音波診断装置  TUP-C035J 全自動血球計数・免疫反応測定装置  MEK-1303+HbA1c	スポットチェックモニター  SVM-7200	人工呼吸器  NKV-330 NKV-550
--	--	--

	2017/3期	2020/3期
自社品売上比率	63.1%	65.6%
消耗品・保守サービス 売上比率	42.8%	目標 実績 45% 45.5%

2 組織的な生産性の向上

- 東日本物流センターの設立

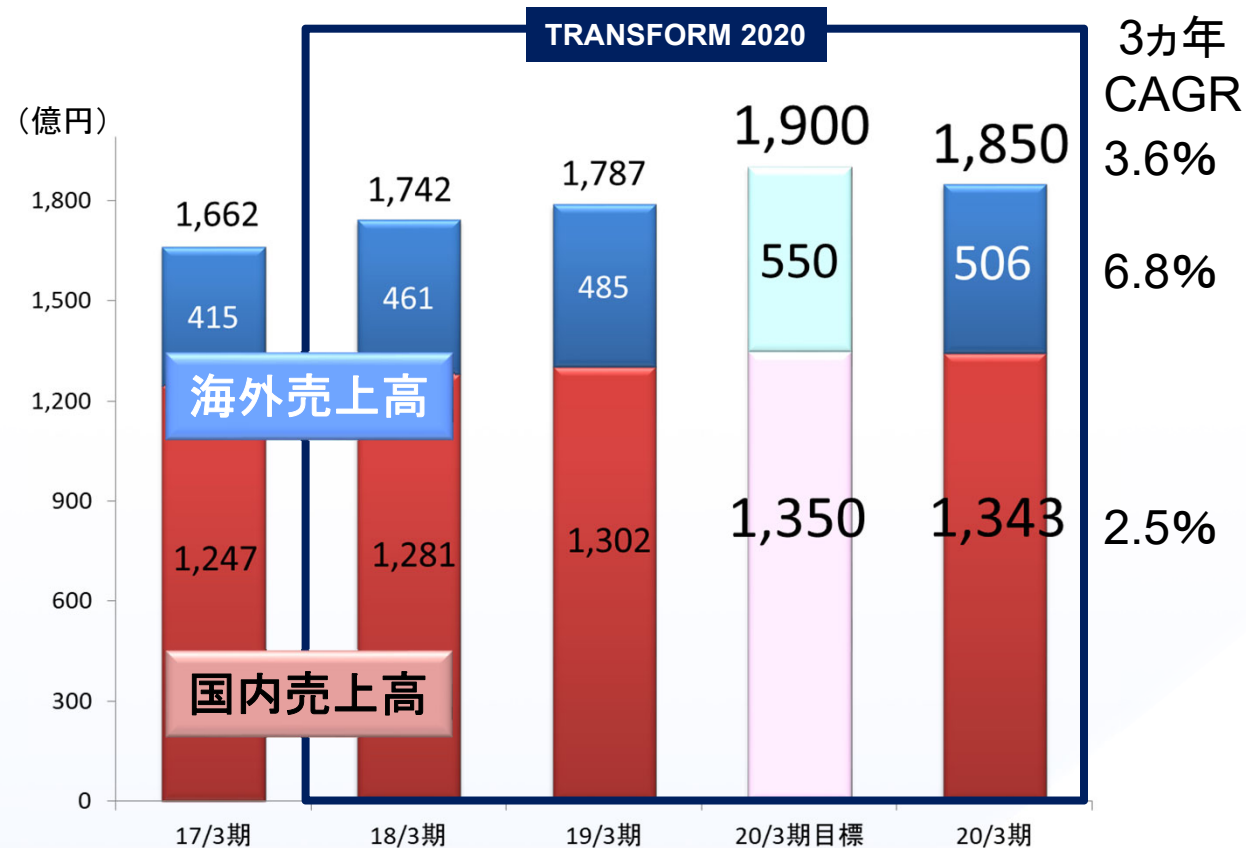
2019年11月 本格稼働



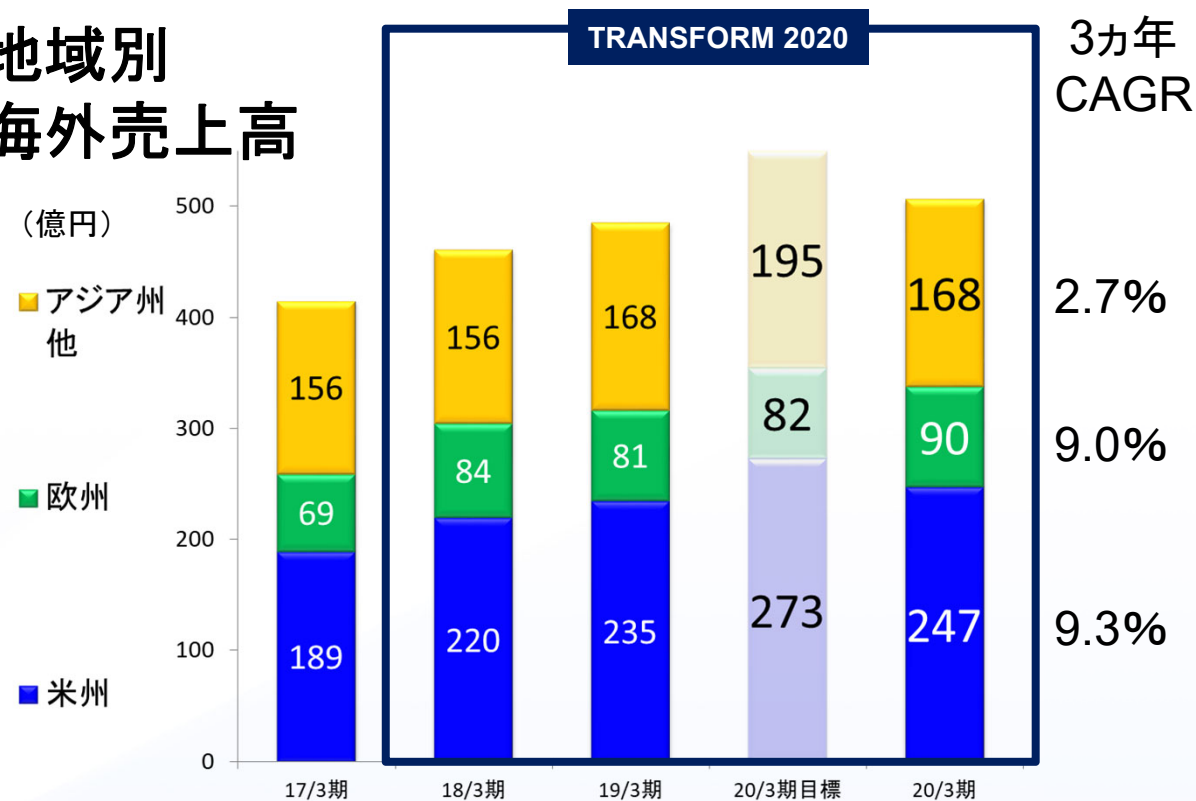
機器と消耗品の
同梱出荷で
物流コスト削減

- ERPのグローバル展開
19/3期: 中東、韓国、20/3期: メキシコ、インドに導入
- 本社-国内支社支店間の業務のスリム化

TRANSFORM 2020の定量評価 - 売上



地域別海外売上高



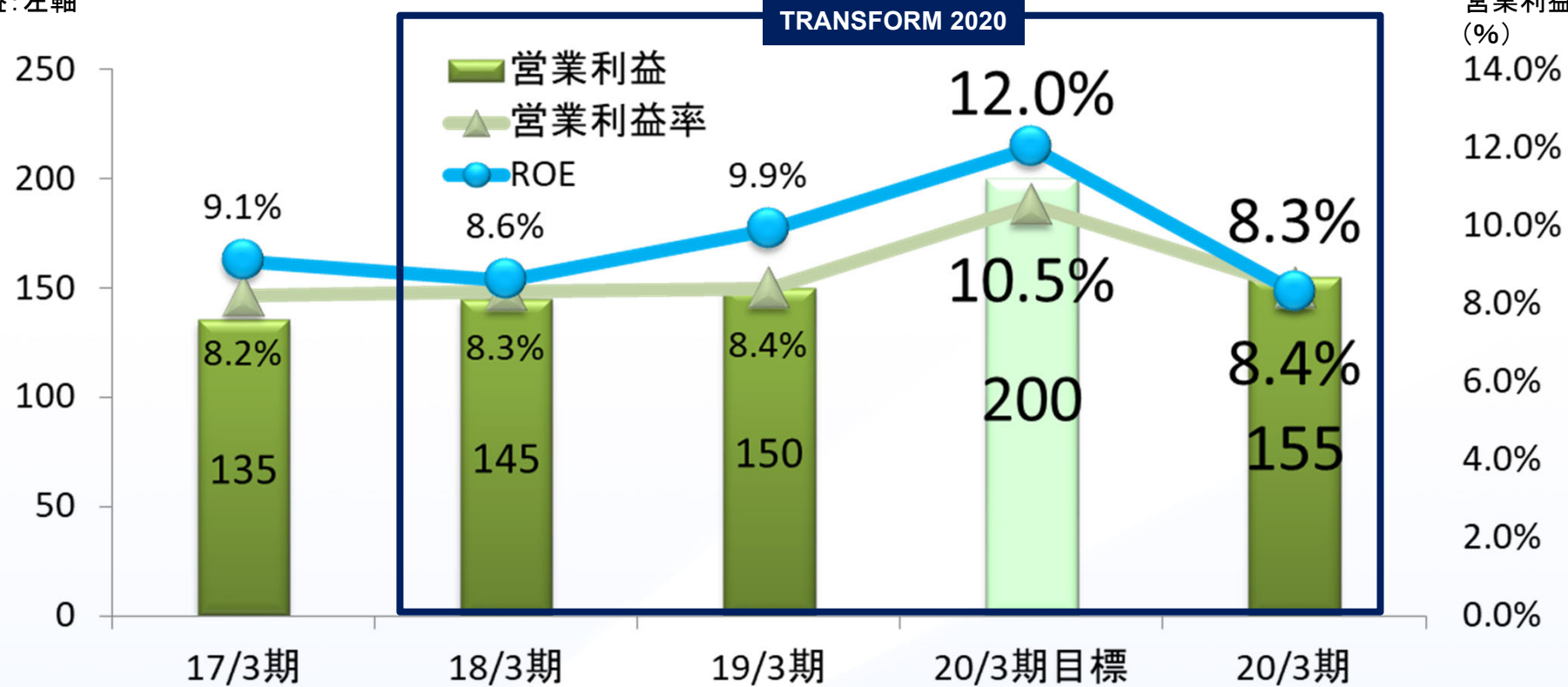
1ドル	109.2	111.0	110.8	110	109.1
1ユーロ	119.3	130.0	128.5	115	121.1

目標未達の要因	国内	- 契約満了に伴う迷走神経刺激装置の取扱中止 3月以降、COVID-19感染拡大により不要不急の訪問を自粛し、診療所・PAD市場の売上に影響
	海外	- タイムリーな新製品の投入に課題 - 東南アジアでの販売体制整備、新興国での短納期商談への迅速な対応に課題

TRANSFORM 2020の定量評価 – 利益

営業利益: 左軸
(億円)

営業利益率、ROE: 右軸
(%)



目標未達の要因

- 売上高未達
- 粗利率は改善したものの、新製品の投入遅れがひびく。生産効率の改善も課題
- 先行投資負担 – 東日本物流センタの設立、海外販売・サービス体制の強化
- 「組織的な生産性の向上」の取り組みは一定の成果を上げつつも、さらなる強化が必要

次期中期経営計画に向けた課題

TRANSFORM 2020 収益性の改善は道半ば

既存事業における収益性の改善

- ✓ 新製品発売スケジュールの遵守
- ✓ 海外事業のさらなる成長
- ✓ 国内事業における顧客価値提案の推進

グローバルでの企業体質の強化

- ✓ ガバナンス・
経営管理体制の強化
- ✓ IT活用によるサプライチェーン
マネジメントの向上

**COVID-19感染拡大により市場環境が変わる可能性
2030年に向けた長期ビジョン・3カ年中期経営計画の公表を延期**

4

次期の取り組み

- 1) 地域別事業展開の強化
- 2) コア事業のさらなる成長
- 3) 企業体質の強化
- 4) サステナビリティに向けた取り組み

1) 地域別事業展開の強化

日本

高齢社会の医療ニーズに応える新たな成長基盤の構築

✓ 新製品・サービスの提案を強化し、
商談を確実に獲得



※ 日本ではコンティニアス・モード限定

✓ 病院経営の改善に貢献する
ソリューション提案の推進

「顧客価値提案」の推進

医療安全 診療実績 業務効率 につながる
提案営業力の強化、サービスの拡充



✓ 遠隔医療サービスへの貢献



米国

世界最大・最先端の米国市場における事業基盤の強化

- ✓ 医療の質と効率の向上に貢献するソリューションの提供

- ✓ 現地子会社6社を統括する「**米国事業本部**」を設置し、事業基盤を強化

生体情報モニタ

生体情報モニタ
市場シェア目標12%



SVM-7200

スポットチェックモニタ

2019年12月発売
体温、SpO₂測定による
感染症患者の
スクリーニングに活用

治療機器



人工呼吸器

2020年1月発売
急増する需要への
対応に注力



NKV-550

脳神経系群



日本光電アメリカ

NKUSラボ

日本光電オレンジメッド

日本光電イノベーションセンタ

デフィブテック

ニューロトロニクス

- ✓ サブスクリプションモデルでの提供開始

医療機関における初期導入コスト負担軽減のため、
月額利用料制で機器やサービス等を提供

中位機種ベッドサイドモニタの投入

製品サイバーセキュリティ
を強化

2020年度上期
米FDA再申請を目指す

新興国

新興国市場の医療ニーズに応える戦略的事業展開

✓ 日本・米国製、上海製の新製品の提案を強化し、商談を確実に獲得



日本光電
ミドルイースト

ドバイ
検体検査試薬工場設立
(2020年度生産開始予定)



上海光電

「中国事業本部」を設置
・現地開発・生産機能をさらに強化

2) コア事業のさらなる成長

生体情報モニタリング事業

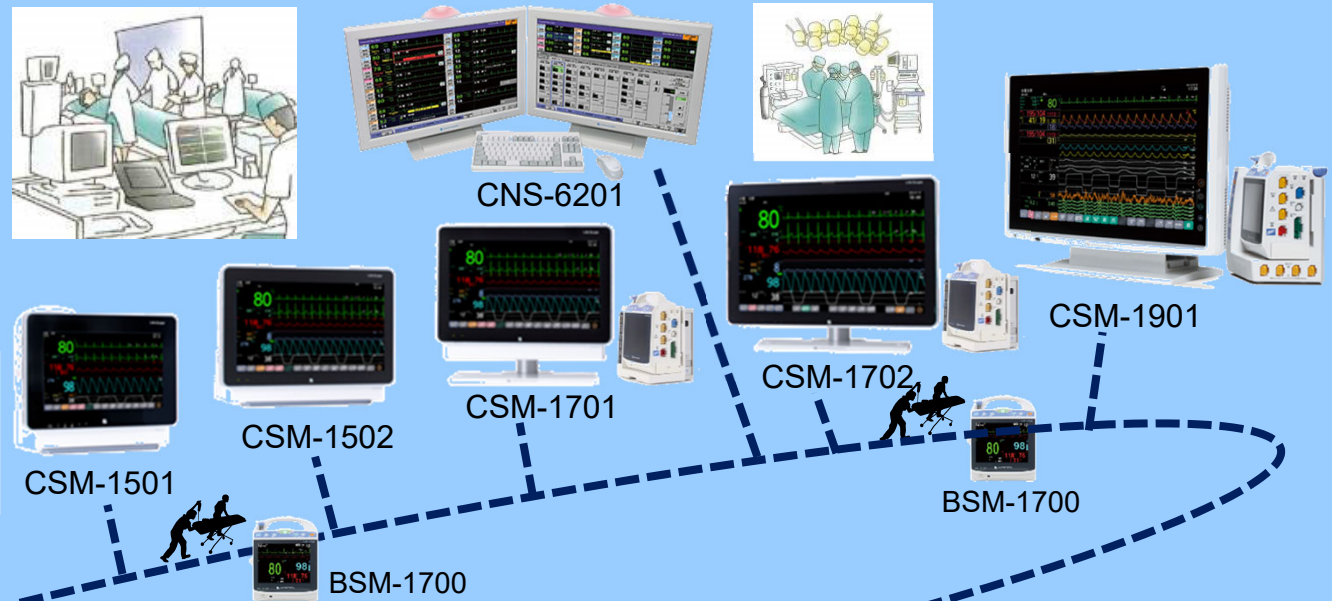
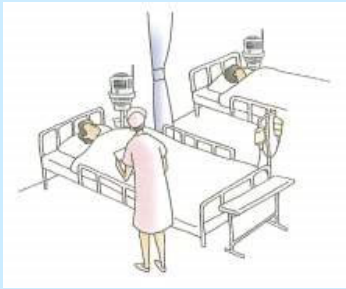
治療機器事業

✓ 過去数年に投入した新製品により提案力を強化、商談を確実に獲得

一般病棟

ICU

手術室



COVID-19感染拡大による
海外市場での生体情報モニタの需要急増を受け、
増産予定

ハイ
エンド

ミドル
レンジ

ロー
エンド

✓ グローバルで急増する人工呼吸器の需要に対応するため、生産・供給に注力

	自社品		輸入販売品
	NKV-330	NKV-550	HAMILTON-C6
仕様	NPPV※1	侵襲型	侵襲型
外観		感染リスクを低減 病室外からの操作が可能 Protective Control™ 	
生産拠点	富岡生産センタ (群馬県富岡市)	日本光電オレンジメッド、 富岡生産センタ (米国 カリフォルニア州)、 (群馬県富岡市)	Hamilton Medical AG (スイス)
販売地域※2	日本、欧州、新興国	米国、欧州、新興国、 2Q日本(予定)	日本

NEW!

上期に1,000台
供給を目指す

NEW!

- 日本光電オレンジメッド増産開始
- 優先的かつ迅速に国内承認取得。
富岡生産センタ生産開始、7月出荷を目指す

※1 NPPV(noninvasive positive pressure ventilation):非侵襲的陽圧換気。気管内挿管や 気管切開を行わない人工呼吸管理

※2 各国の許認可申請の状況によって異なります。

3) 企業体質の強化

グローバルでの企業体質の強化



「グローバル経営管理本部」 の設置

- ✓ グローバルな経営管理体制・ガバナンス体制の確立



「CDX統括部」の設置 Corporate Digital Transformation

- ✓ グローバルな情報基盤の整備

生産性
向上



ビジネスモデル
変革

- ✓ 組織的な
サイバーセキュリティ
体制の強化



4) サステナビリティに向けた取り組み

持続可能な社会の実現、持続的な企業価値の向上

日本光電が得る価値

2つの価値の
共創・最大化

社会が得る価値

医療

環境

企業活動

の分野でマテリアリティを検討

3 すべての人に
健康と福祉を



4 質の高い教育を
みんなに



5 ジェンダー平等を
実現しよう



7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



8 働きがいも
経済成長も



9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



10 人や国の不平等
をなくそう



12 つくる責任
つかう責任



13 気候変動に
具体的な対策を



16 平和と公正を
すべての人に



次期中期経営計画に織り込む予定

利益配分の基本方針

将来の企業成長に必要な内部留保の確保に配慮

研究
開発



- ・持続的成長に向けた
製品・技術開発

設備
投資



- ・人工呼吸器、
生体情報モニタ
増産体制の構築
- ・情報基盤の整備

M&A
提携



- ・新たな成長機会の
探索

人財
育成



- ・人財の獲得、育成
など

株主
還元

長期安定配当
を継続

目標：連結配当性向
30%以上

配当重視

自己株式の取得は
機動的に検討

年間配当金

20/3期： 35円 (配当性向：30.2%)

21/3期(予定)： 35円 (配当性向：29.8%)

自己株式保有：357万株
(持株比率：4.0%)

この資料に記載されている業績予想数値は、当社および当社グループ会社の事業に関連する業界の動向、国内外の経済情勢、各種通貨間の為替レートの変動など、業績に影響を与える要因についての現時点で入手可能な情報を基にした見通しを前提としております。同数値は、市況、競争状況、新商品導入の成否など多くの不確実な要因の影響を受けます。

従って、実際の業績は、この資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご承知おきください。

【担当部署】 経営戦略統括部

【連絡先】 TEL03-5996-8003